

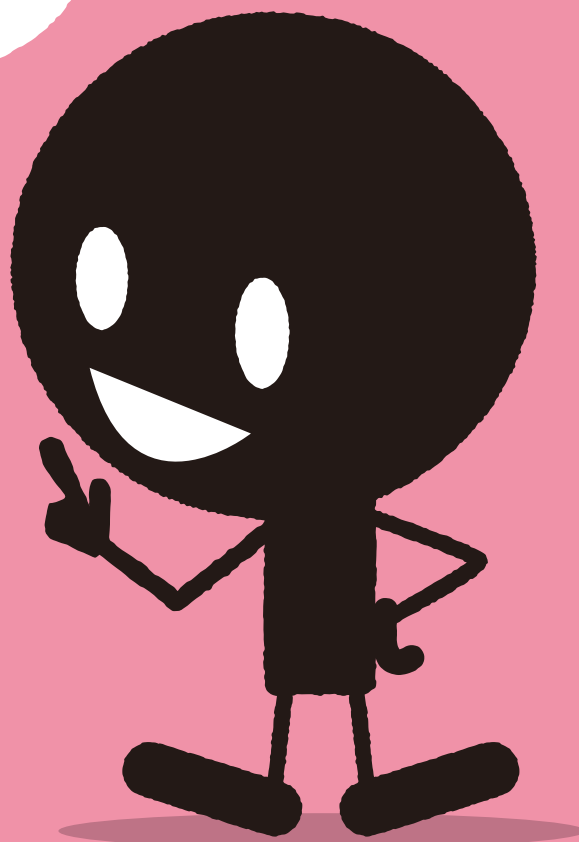
---

# 高校生の頃にしてほしかった キャリア教育って何？

～ 卒業後に振り返って思うキャリア教育の意義 ～

---

キャリア教育は、  
どう受け止められて  
いるのかな？



# 高校生の頃を振り返って思う“もっと指導してほしい”こと

キャリア教育に日々取り組む中で、生徒が意義を感じているか悩むことがあると思います。そのような時は、キャリア教育の意義は、すぐに実感されるものもあれば、後になって感じられるものもある、ということを確認することが良いでしょう。このリーフでは、キャリア教育の取組を高校生当時に役立つと感じたか、卒業後の今になりもっと指導してほしいかという二つの点から、取組の意義を探ります(注1)。A, B, Cの三つのタイプを御紹介します。

## A

### すぐに「役立つ」と感じられる学習内容

高校生のときに「役に立った」と感じ、卒業後に振り返ると「もっと指導してほしい」と思う学習内容

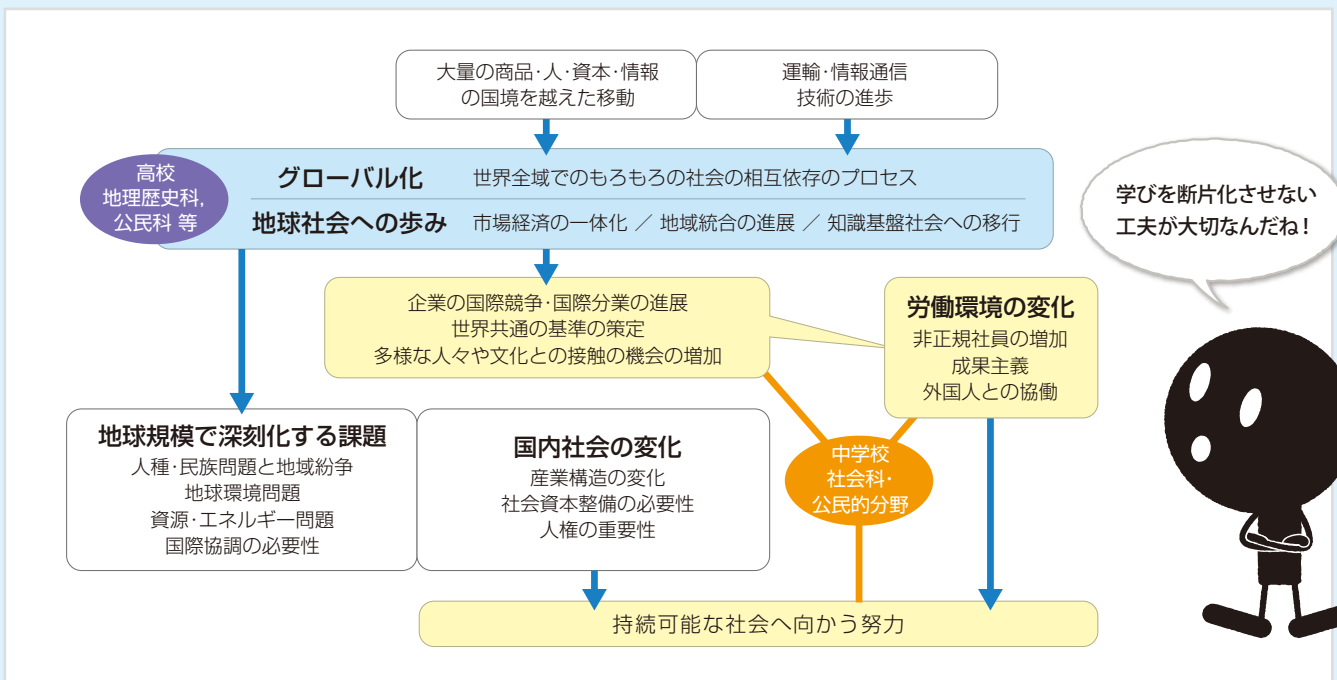


- 自分の個性や適性(向き・不向き)を考える学習
- 進学にかかる費用や奨学金についての情報
- 社会全体のグローバル化(国際化)の動向についての学習 など

これらは、高校生のときにも、そして卒業後に振り返ってみても、意義を感じられた項目です。キャリア教育の内容として重要視できるものです。

### 社会全体のグローバル化の動向

例えば、社会全体のグローバル化の動向は、地理歴史科や公民科の授業で学ぶことができます。国際社会に主体的に生きる人間としての自覚と資質を養うことが、生徒のキャリア設計に結び付きます。



各教科における学びを断片化させない工夫や、これからの社会での生徒自身の在り方生き方と結び付けた学習が、更に求められています。各教科での日々の教育活動をキャリア教育の観点から系統立てていくための実践例については『[高等学校キャリア教育の手引き](#)』(文部科学省, 平成24年)の第3章第4節に提示されています。



## 時間がたってから「役立つ」と感じられる学習内容

高校生のときには「役に立たない」と感じたが、卒業後に振り返ると「もっと指導してほしかった」と思う学習内容



### 👉 社会人・職業人としての常識やマナーについての学習

「社会人・職業人としての常識やマナー」は、卒業後に必要性が感じられています。高校生の頃には意義を感じにくいからこそ、学ばせ方に工夫をしましょう。

#### 社会人・職業人としての常識やマナー

教職員の振る舞いも生徒にとっては学びの対象となります。「日々学校内の高校生活の中で先生がまずは見本を示し、生徒とともにこのビジネスマナーを実践することが大切」という提案もあります(注2)。インターンシップに向けて事業所の方とやりとりしている様子を見せるのもよいでしょう。



## 高校生のときに「取り組んでおきたかった」学習内容

高校生のときには「取り組んでいない(指導がなかった)」が、卒業後に振り返って「もっと指導してほしかった」と思う学習内容

### 👉 就職後の離職・失業など、将来起こり得る人生上の諸リスクへの対応についての学習

### 👉 転職希望者や再就職希望者などへの就職支援の仕組みについての学習など



これらは、卒業後に、高校生の頃にあったら良かったと思う学習内容です。これらの内容についてのニーズは潜在的に高いと言えます。

#### 就職後の離職・失業など、将来起こり得る人生上の諸リスクへの対応 転職希望者や再就職希望者などへの就職支援の仕組み

変化が激しい社会においては、長期的なキャリア展望を持ちづらく、様々なリスクに直面することが予想されます。高校生や保護者も、「将来起こり得る人生上の諸リスクへの対応についての学習」を望んでいます(注3)。将来直面する諸リスクに対して、生徒が学校で学んでいる間にいかに備えができるかは重要な課題の一つです。

(注1) 国立教育政策研究所生徒指導・進路指導研究センター『再分析から見えるキャリア教育の可能性—将来のリスク対応や学習意欲、インターンシップ等を例として』2016年、pp. 21-23, 72-75より。

(注2) 『高校におけるキャリア教育実践講習』Part.2「06啓発的経験」(厚生労働省、平成22年度)より。

(注3) 『「キャリア教育・進路指導に関する総合的実態調査」パンフレット—学習意欲の向上を促すキャリア教育について—』(国立教育政策研究所生徒指導・進路指導研究センター)平成26年3月より。

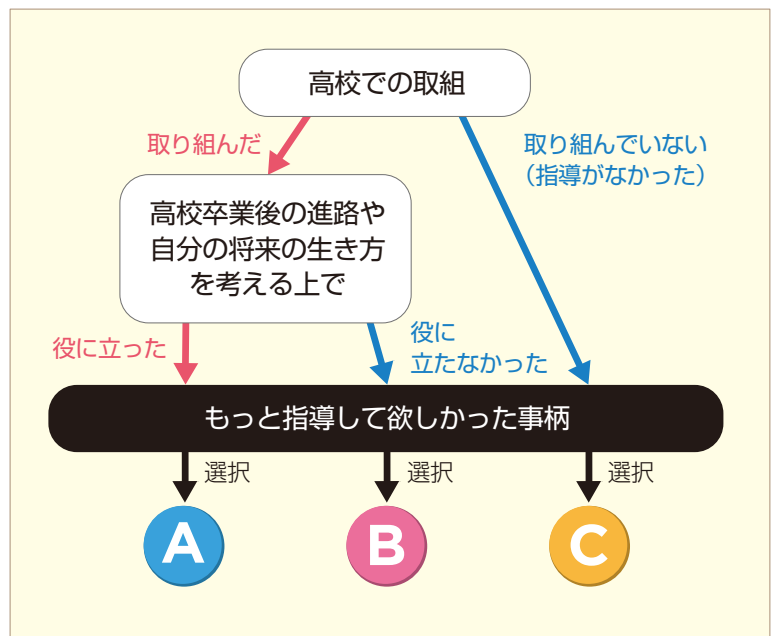
# どのようにしてA,B,Cを探り当てたの？

高校卒業者に協力いただいたアンケート(注4)(注5)の中で、次の学習内容をどのように評価しているのかを尋ねました。

- 自分の個性や適性(向き・不向き)を考える学習
- 学ぶことや働くことの意義についての学習
- 卒業後の進路(進学や就職)に関する情報の入手方法とその利用の仕方
- 将来の職業選択や役割などの生き方や人生設計
- 上級学校(大学, 短期大学, 専門学校等)や企業への合格・採用の可能性
- 社会人・職業人としての常識やマナーについての学習
- 進学にかかる費用や奨学金についての情報
- 労働に関する法律や制度の仕組みについての学習
- 近年の若者の雇用・就職・就業の動向についての学習
- 社会全体のグローバル化(国際化)の動向についての学習
- 就職後の離職・失業など, 将来起こり得る人生上の諸リスクへの対応についての学習
- 転職希望者や再就職希望者などへの就職支援の仕組みについての学習
- 男女が対等な構成員として様々な活動に参画できる社会(男女共同参画社会)の重要性についての学習

上記の、高校での学習や指導について、高校生のときに高校卒業後の進路や自分の将来の生き方を考える上で、【役に立った】【少しは役に立った】【役に立たなかった】【取り組んでいない(指導がなかった)】の四つの中から選んでもらいました。これに加えて、高校での学習や指導のうち、高校生のときに自分の将来の生き方や進路について考えるために、【あなたが指導してほしいかと思う事柄】を選んでもらいました。

二つの問いへの回答結果を整理して見えてきたのが、右のA, B, Cの三つのタイプです。更なる詳細は、『再分析から見えるキャリア教育の可能性—将来のリスク対応や学習意欲, インターンシップ等を例として』を御覧ください。



注釈 (注4)「キャリア教育・進路指導に関する総合的実態調査」(国立教育政策研究所)平成24年10月上旬～11月中旬に実施。  
 (注5)平成24年3月卒業者を対象。依頼数2500, 回収数1169, 回収率46.8%。卒業した学科は, 普通科50.9%, 職業に関する学科36.1%, その他の専門学科4.8%, 総合学科8.1%。平成24年秋時点での状況は, 学校に在学67.8%, 仕事(定職)に就いている25.5%, 仕事(アルバイト・パート)に就いている0.6%, 進学に向けて準備している5.6%, 家業・家事に従事している0.1%, 求職中である0.2%, その他0.3%。

【作成協力委員】 伊藤 秀樹 東京学芸大学教育学部講師  
 ※職名は平成29年3月現在 岡本 智周 筑波大学大学院人間総合科学研究科准教授  
 京免 徹雄 愛知教育大学学校教育講座講師

【事務局】 生徒指導・進路指導研究センター